

# 岩下 日出雄さん,ひとまず お疲れ様でした♪



グループサウンズへの参加がエンターテインメントの第一歩でした。

昭和49年に俳優の天知茂がカバー刑事ドラマの主題歌になりました。



会社よりも酒場が好きみたい。



仕事よりもゴルフが好きみたい。



東宝からエーディープロジェクトと榎垣俊幸と歩んで来ました。



ご意見・ご感想は [adtain@adproject.co.jp](mailto:adtain@adproject.co.jp) まで メールでお寄せください。

発行：株式会社エーディープロジェクト 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 共同ビル

[www.adproject.co.jp](http://www.adproject.co.jp)

adproject 公式 facebook を check する adproject がお届けするエンターテインメント情報を随時UP!!

皆様の いいね! をお待ちしております。

facebook adproject

検索

もしくは、<https://www.facebook.com/adproject.japan>



2014 12  
vol.031

## Legend

### 第12回 美意識⑫

～思想の美学～



ゼネラルプロデューサー  
榎垣 俊幸

#### ■生きる為に無我夢中だった時代

本年、12月13日をもってエンターテインメント戦友の岩下日出雄さんが65歳の誕生日を迎えられ定年を迎えられます。長い戦いで苦勞さまでした。なお今後は、顧問に就任していただき、皆さんの師匠としてご活躍をお願いしています。

氏とは、40年以上の歳月を、マーケティング業務にエンターテインメントの効用と拡張にご尽力をいただきました。当時は、東宝の映画演劇の演出や制作能力の貸し出しを、電通や博報堂と提携して行っていました。

博報堂は岩下氏に担当してもらい、電通は私が担当するという家内工業の様な、助け合いの仕事でした。社内にSP部と言う部門を創設し、電通や博報堂と共に、セールス・プロモーション(販売促進)の在り方を研究し研磨して参りました。当時の東宝・馬淵会長の処に業務説明に行った時、「要するにチンドン屋って事だな！」と言われ核心を突かれ、二人でチンドン屋に徹し、高度成長期のもう一つの広告活動として、マーケティング活動として拡張を目指しました、また、映画の宣伝プロデューサーとしても「ドラえもん」や「ゴジラ」なども担当してもらいました。彼の才能であった音楽活動では、今やレジェンドになった佐野元春などが部下として活躍をしていました。学生時代から、ブルベル・シンガーと言うバンドを結成し、「昭和ブルース」と言うレコードデビューを果たしました。その後は銀座でピアノの先生として、当時の丸の内サラリーマンの5倍ものギャラを稼いでいたそうです。

#### ■遊びの天才は公私共にモテた

夜の銀座で磨いた「遊びの天才」は芸能人やホステスにもてはやされて、一躍、「殿下」と言うプレイボーイになった様です。そこで私は、彼に営業本部の「チンドン屋」として楽しい集団作りをお願いしました。当時は、接客で銀座に行くと、出勤中のホステスさんは「殿下」に挨拶に来るは、黒服の怖いお兄さん達は直立不動で挨拶をする状態でした。お客様も私も、やくざの親分に成つ

EDGE  
Positive mind



adtain  
adproject-entertain  
newspaper

モデル：Merry / Height:170cm B:86 W:60 H:87  
事務所：ARTRICK ENTERTAINMENT (アートリック) <http://artrick.com>

### adtainとは、adprojectとentertainが融合した「おもてなし」のトピックス誌

た気分で心地よく接待ができたのを覚えていて、やがて、遊びの殿堂と呼ばれる様になったSP部には、多くのお客様がやってきて、楽しく仕事がしたいと、向こうから依頼が殺到したものでした。私達の仕事は楽しく一緒に仕事をする事で、本音を語り、夢を語り、異業種の人達と交流が始まり、広範囲の教養が付き、楽しく面白い集団として、持て囃されました。その隊長として岩下プロデューサーは先頭に立ち、楽しい仲間も入社してくるようになり、エンターテインメント拡張の夢は広がったのです。まさに、一芸一能の集団として、秀でた才能の持つ集団と変貌したのでした。そして「才能が特化した集団」として、今日のadprojectが誕生したのでした。

#### ■遊びの哲学を持つ男

様々な仕事のスタイルに挑戦してきた岩下EXプロデューサーには様々な難関を凌いだ経験と実績が有ります。それは、彼には「遊びの哲学」が有るからです。理屈でなく、クリエイティブに大切な体験体感という感性が

有ります。しかし、これは、考えて、その道を歩んだのでは無く、自分の資質として、「楽しいが一番」を身に付けたのです。次の時代を継ぐ皆さんは、貴重な体験をしている岩下先輩と、遊び、学び、話を引き出し、楽しい関係づくりの秘訣を吸収してください。そして、私達の創業の理念をついで、会いたくなるadprojectの使命を果たしてください。

最後に、エンターテインメントの戦友である、岩下日出雄(65)さん、ありがとう。私は貴方と出会って、様々な世界を味わってきました。そして「遊びの哲学」は人を幸せにする事も勉強させて頂きました。そして、こんな私になっちゃったのも貴方のおかげです。この「遊びの哲学」を杖に、後半の人生を重ねさせて頂きます。最後に、会社の交際費を銀座で、沢山お使い頂きお疲れの事と察します。今後はこの「遊びの哲学」を後輩に、ご指導ご鞭撻の程を宜しく願います。お疲れ様でした。 わが同志戦友へ。



※使い道のなかったプリクラより

12月に入ってもなんとなく暖かい日があったので、今年の冬は余裕かな♪なんて思ってしまった数日前、大きな勘違いでした…。日に日に寒くなってるじゃないですか。そろそろ路面の凍結や雪の朝を迎えるのでしょうか。毎朝駅まで颯爽と自転車に乗る私としては、すっ転んだ記憶がよみがえり怯んでしまいます…。そんな冬のお話ですが、今年初めて氷点下の菅平で行ったJAFユーザーテストが公開されました。内容は、冬になると多くの地域で最低気温が氷点下まで冷え込むことが多くなるため、フロントガラスの凍結防止対策と凍結時の解氷方法、さらにドアの凍結を検証しています。

「寒冷地での駐車時は窓やドアの凍結に注意！」⇒ JAFユーザーテスト寒冷地

朝、クルマで出かけようと思ったら、フロントガラスが凍って前が見えなーい！って経験ないですか？デフロスターでプーっつと頑張っても視界が確保できるようになるには10分もかかってしまいます。急いでいる時のイライラは、MAXです。そんな時には解氷剤！比較的クルマと接するコトが多いハズなのですが、実はこの存在、この日まで知らなかったんです。たったの1分で、見事に視界確保。すばらしい！！ただですね、1分間スプレーするのは結構大変です。相当大変だったんです。手がいうコトを聞かなくなってくるんです。撮影では、そんなコトを微塵も感じさせないように余裕を装いスプレーしたので、周りの誰一人気づってくれるわけもなく…(笑)。そして、もう1つ。

面倒くさがりな私の場合、クルマが汚れたらスタンドで洗車です。そして、たまーに拭かずにそのまま走り出してしまう…。そんなコトは氷点下の寒冷地では、やるべきではないようです。(普通でもやらない?) ドアの内側が濡れたままだと、凍りついて開かなくなってしまうようです。雨の降った日にはどうなるんでしょう…と今更ながらに(必死に)解氷剤をスプレーするだけ！考えてしまいますが、テストでは凍りついたドアを力づくで開けるとペリペリペリっと、いい音がしました(笑)。かけた力はなんと20Kg以上も！これからの季節、知っておくのと知らないのとでは、全く違ってきますよ。早速、検索してご覧ください♪ちなみに私、WEBや動画、JAF M a t e誌、レスポンスなどなどいろいろなところに登場しておりますが…知らなかった…。あれ？出演料は～??

レスポンスの記事に。世界でview



PRODUCER：須田 潤一

- Event：気仙沼 大島復興支援
■Date：2014.11.25
■Place：気仙沼大島

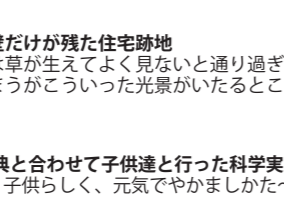
来年の3月で、東日本大震災から4年が経ちます。お付き合いさせて頂いている制作会社より、連絡を頂き仕事を手伝わせてもらう運びとなりました。場所は、気仙沼からフェリーで30分程行った「大島」という小さな島でした。津波で浸かってしまい損傷の激しい公園を某大手電機メーカーが、支援し修繕を行ったので、その公園を引き渡す式典を実施するといった内容です。その中で、まだまだ爪痕の残る被災地の状況と被災地の方々とお話しする機会もありました。今回行った公園の修繕活動で島の人たちからは、久しぶりに子供たちの笑い声を聴いたと伺いました。島の人たちは、震災から時間がたつて冷静になると海の傍で、海と共に生きて入る以上、今回のような災害とも向き合っていかなければならないとおっしゃっていました。その分、海からの恩恵を得ることもある、と。ただ、大きな防波堤に多額の費用使うよりは、こういった公園の修繕等を行って頂き、少しでも子供たちの笑顔が戻る環境に目を向けて頂ければありがたいとおっしゃっていました。式典が終わった後も、夕方まで子供たちが笑顔で走り回る姿が印象的でした。

離れ島が津波で赤いラインくらいまでまれたそうです。



かつての小田の浜 海水浴場百選」の「海の部特選」にも選ばれている小田の浜にはかつて、松の木が並び、その美しい浜のアクセントでしたが、津波でほとんどが流されたそうです。

新しく生まれ変わった公園と子供達



外壁だけが残った住宅跡地 今は草が生えてよく見ないと通り過ぎてしまうがこういった光景がいたるところに。

式典と合わせて子供達と行った科学実験教室 子供らしく、元気でやりました～(笑)

小田の浜周辺の傾く電柱と交通標識

Project 1.

PRODUCER：カデット 葉子

- Event：JAFユーザーテスト
■Date：2014年冬
■Place：寒い菅平



日本在住の外国人が ～これはすごいと思った日本の住宅設備のNo1は何!!～

EXECUTIVE PRODUCER：鶴田 勤



日本人は外国の方々に「日本の住宅設備のなかでこれは凄いと思っているものは何ですか」と訊ねたら温水洗浄便座、という答えが返って来るのではと思っていられる方が多いと思いますが、その他に外国の方々が興味を持っていらっしゃるのはいすゞの床や、押入れ(これはどの住宅にも最初からクローゼットのように付いておりは物置となり超便利との事)や心を持っている設備は沢山有りますが、実はこれ等は外国の方々に凄いと思ってもらえている住宅設備のNo1ではあてです。網戸の日本での普及率は98%で外国では先進国アメリカを含めても、10%～30%程度で少なく蚊を媒介しての病気が減り少ないのも解る様な気がします。日本の網戸の網目は0.9mm以下で、花粉やほこり等も殆ど通さないフィルター網戸や室内からは外が見えるが、外からは室内が見えにくい網戸、網自体に薬剤が埋め込まれており虫が寄り付かない網戸などと進化しており、それ等の網の能力や普及率に外国の方々は驚きと賞賛を送ってくださっているそうです。網戸のおかげで2014年9月代々木公園の蚊から発生したデング熱の拡散も防げ、世界中の住宅にも網戸が普及すれば病原菌から人々の生命を守ってあげることが出来るのではと思っております。

サンタクロース

PRESIDENT：檜垣 俊吾



冬の玩具商戦ともいえるX'mas。親は子どもに対し、サンタへ何を願うのか、欲しいもの聞き出すタイミングですが・・・さまざまな道徳的な約束ごとを守られているのか不思議なことに、子ども達に対して「サンタクロースへお願いしましょう」的な露骨なプロモーションは殆どない。これは子どもの気持ちに大切に配慮でもあり、デジタル情報社会がますます進む未来においても守るべき大人のルールであってほしい。また子ども達がサンタクロースを信じ続けるのは小学校高学年までというデータが多く、その頃に約7割の親が、子どもから「サンタクロースって本当にいるの?」と聞かれるという。その質問を受けた時に、自分は何と答えるのか。考えた事ありますか?そこの答え一つが、信じ続けてきた子ども達の夢に対して影響を与える一言になると思うと、なかなか責任重大である。サンタクロースの存在否定は絶対にせず、ここ最近はお父さんやお母さんが代わりに担っていたと明かすのがベストだと思う。何でも調べられるこの時代においても、小学校高学年まで夢を与えるサンタクロースは、未来永劫、子どもたちの心を今と変わらず喜ばせてくれるであろう大切な伝説として受け継いでいきたい。



Project 3.

PRODUCER：須田 潤一

- Event：気仙沼 大島復興支援
■Date：2014.11.25
■Place：気仙沼大島

クドカンとつかこうへい

PRODUCER：岩下信而



さて、「わたし堀越だから」で物議を交わしたクドカンドラマが先日終了した。プロットは「ドラゴン桜」のロックンロール版みたいで他愛もないが、相変わらずセリフのくすぐりやディテールは冴えていて面白かった。しかし今回の見所は何と言っても風間丈夫と平田満というつかこうへい劇団の二人の競演であった。そこで思い出したのは二人の同志亡き三浦洋一さん。酒はよく飲ませていただいたけれど、つか劇団の99円チケットは買わされた。シャイだけど筋の通った役者。そういえば多くの同級生の熊谷真実は、やかましいだけのおばさんになっちゃったし、彼女の甥はあまちゃんのスカウト役を演っていたな。あれ、ここでもつかこうへいとクドカンが繋がった。だからエンターテイメント生活はやめられないですね。では次号 Ciao!



ビールカルダンにインスパイアされ、VANの石津謙介さんが始めた定員99名99円の収支度外視の小劇場。これこそ本当のメセナですね。



浦山 善明

■年の瀬に感じたことを徒然なるままに…



現在、コペンハーゲンの音楽シーンが熱い!!

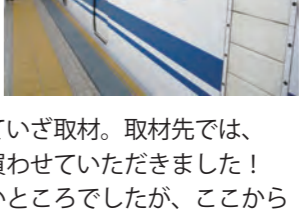
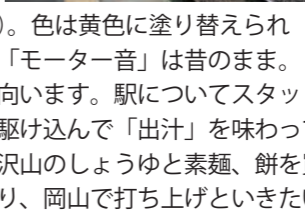
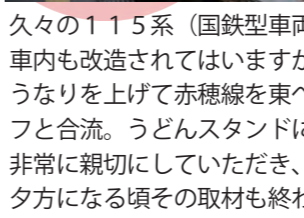
2000年代の頭に起こった、ロックンロール・リヴァイヴァルというムーヴメントをご存知でしょうか? 1990年代にblurのデーモン・アルバーンが「ブリットポップは死んだのさ」と言ったあの頃、音楽シーンの中心にあったのは、ヒップホップやR&Bなどのクラブミュージックでした。それ以後、コンピュータの発達も相まって、電子機器が多用されるようになると、音楽はより複雑さを増すとともに、均質の工業製品のような音楽ばかりが出回るようになりました。そんな作りこまれた音楽やシーンに対するアンチテーゼを唱えんとばかりに現れたのが、その当時、真剣に歌うことを完全に放棄したヴォーカリスト、ジュリアン・カサブランカス率いるUS産のThe Strokes。彼らが作り出した必要最低限の音だけで構成されたシンプルな楽曲は、演奏力がない(実際下手)と揶揄する声をはね返すビッグセールスを叩きだしました。時を同じくして、イケないお薬にはまっていたビート・ドハーティ擁するUK産のThe Libertinesが台頭(後にRAZORLIGHTというバンドを組んで、ちょっとした人気者となるジョニー・ボーレルもかつて在籍)。PISTOLSのような初期衝動に、類まれなる才能の散文詩をのせる彼らの音楽性は人々を魅了し、Strokesと共に当時のシーンをリードする存在となりました。この一連の流れがロックンロール・リヴァイヴァルというムーヴメントであり、以降、日本でも以前は発売すらされなかったであろう若いアーティストの作品がどんどん入ってくるようになりました。この1大ムーヴメントをリードした2つのバンドには共通点があり、それは英国のRough Tradeというインディーレーベル(かつてThe Smithsも在籍)に所属していたということ。インディーズ特有のギラギラした空気感や作品の仕上がりは、DIY精神溢れるものでした。メジャーレーベルにありがちな作られた感、やらされてる感の全くないリアルな言葉、音楽がそこにはありません。同時に、メジャーほど守られないその待遇、すべては自己責任の厳しい世界に倣させざるを得ませんでした。今思うと、社会に出るってことは彼らの境遇に非常に似ているのだなと感じます。会社という枠にいるものの、売れる(売上げがあがる)ために自己プロモーション活動をし、ネットワークを広げ、作品を出して(仕事をして)、顧客を獲得する。そう考えるとフィールドは違えど、青春時代の夢と同じことやってるんだな。夢がなくなった。なんて勘違いを自分に言い聞かせながら、これからも徐々に社会に馴染める様に頑張ろうと思った12月でした。最後は、思春期に聞いたら根暗になってしまうランキングで間違いなく1位を取るであろう、UKバンドRadioheadのJustという曲から。自分を含めた社会人になりたての人に響きそうな言葉を見つけたので、戒め含め締めの言葉で。「You do it to yourself, you do ~お前が自分でしたことだろ、自業自得~」



PRODUCER：橋元 大輔

- Event：取材(を鉄道マニアの視点から)
■Date：2014.12.3-6
■Place：福井→東京→岡山→鹿児島

4日間で約3,000km??ちゃんと調べていませんが…入社8年。日本国内でこんな短期間にこんなに移動したのは初めての体験でした(笑)初日は本拠地?東京から福井へ。静岡あたりで切符の確認に来た車掌さんに、この先乗り継ぐ「しらさぎ」号が雪と暴風で動いていないと告げられ…結果、米原からは普通電車乗り継ぎで福井入り。余裕があれば京福電鉄にも乗りたかったのですがそんな時間も無く。取材終了後、東京へトンボ帰り。翌日は終日東京で打合せして、三日目は東京→岡山へ移動。毎度のN700系です。岡山到着後、駅は雪の影響で大混乱でしたが、私は温暖な山陽路に赤穂線に向います。



久々の115系(国鉄型車両)。色は黄色に塗り替えられ車内も改造されていますが「モーター音」は昔のまま。うなりを上げて赤穂線を東へ向います。駅についてスタッフと合流。うどんスタンドに駆け込んで「出汁」を味わっていざ取材。取材先では、非常に親切にいただき、沢山のしょうゆと素麺、餅を買わせていただきました! 夕方になる頃その取材も終わり、岡山で打ち上げといきたいところでしたが、ここから「みずほ」に乗換え、一気に鹿児島へ。都合東京→岡山經由→鹿児島へ。一日で東海道→山陽→九州新幹線を走破させていただきました(笑) マニアとしては至福の時間でしたが、到着後すぐに焼酎のシャワーを浴びに居酒屋を探して天文館通りに。翌日の取材備え体力回復。四日目は取材も順調に進み、遅めの飛行機まで余った時間で鹿児島マーケティング(観光?)して帰ってきました! この取材のVTRも完成間近! また来年も出来るとうれしいのですが…

